

令和5年度 事業報告

1. 内外の女子体育に関する研究及び研究大会の開催

1) 関連研究プロジェクト

(細川会長)

研究タイトル：『JAPEW 70周年プロジェクト ～ダンスを通じて境界を越えた創造的な対話を実現する～』

申請者：(公社)日本女子体育連盟理事会

研究背景：2024年にJAPEWは発足70周年を迎える。特に近年は、ダンスについての新しい見方、オンラインと対面を活用してのダンス指導の工夫や事例を収集してきた。本プロジェクトではこれまでの成果を基盤にして、社会状況の変化に対応し、学校体育ではその中で学びに向かう力を高めるような、生涯スポーツにおいては活動継続に資するような考え方や方法をさらに研究し、これらの活動成果を、条件や場面に応じて参考にできるように、また広くアクセスできるような形式で発表することを目的とする。

研究計画：2022年-2024年の3年計画。

【1年目(実施済み)】①情報の整理と分析 ②観点の抽出 ③研究の骨子の図式化

【2年目(当年度)】観点ごとの研究実践

【3年目】連盟創立70周年記念第57回全国女子体育研究大会(東京)/JAPEW SUMMER SEMINAR2024等において研究成果を公開

研究成果：1年目の研究で抽出された研究の観点についてさらに検討を進め、以下の2観点に絞り研究を進めた。

観点①テクノロジーの活用：ICTを活用した表現運動系・ダンス領域の創造的対話的学習モデルの構築を目的とした、学校体育授業を対象としての調査研究及び質的研究

観点②未来へのレガシー：生涯スポーツにおけるダンスの成功モデルと世代を超えた持続可能なダンス文化創出の特徴(条件)を抽出することを目的とした、トップアーティストや地域のダンス活動を活発に行なっている高齢者の方々等を対象としての調査研究及び質的研究

2) 加盟団体との共同研究

(細川会長 寺山常務理事)

【継続】愛媛県女子体育連盟(共同研究者：寺山由美)

研究テーマ：「愛(え)顔(がお)で架けよう 人から人へ ～表現・ダンスの力を明日へと繋いで」

<概要>

上記テーマを掲げて開催された第56回全国女子体育研究大会(愛媛大会)では、コロナ禍の学びをウィズ・アフターコロナのためのレジリエンスとして生かし、愛媛県下の学校が模索してきた「学びを止めない授業の在り方」を発表した。その発表に向けて、意見交換を行った。

3) 全国女子体育研究大会

第56回全国女子体育研究大会(愛媛大会)

(寺山常務理事)

期 日 2023年12月1日(金)・2日(土)

場 所 松山市総合コミュニティセンター他

主 催 (公社)日本女子体育連盟、愛媛県女子体育連盟

後 援 スポーツ庁、(公財)日本学校体育研究連合会、愛媛県教育委員会、松山市教育委員会、他

テーマ 「愛(え)顔(がお)で架けよう 人から人へ ～表現・ダンスの力を明日へと繋いで」

内 容 分科会・全体会

参加者 全国の幼・保・小・中・高校・特別支援および大学、生涯スポーツ指導者等

人 数 県外参加者206名、県内参加者289名 計495名

参加費 6,000円

<概要>

「愛(え)顔(がお)で架けよう 人から人へ ～表現・ダンスの力を明日へと繋いで～」というテーマの元、コロナ禍に負けない「学びを止めない授業」の在り方を求め、表現・ダンス領域の学習について、これまでの実践を重ねた成果を研究大会で発表した。幼稚園・保育園、小学校、中学校では、各学校園での公開授業を行った。また「学校から社会へ」では、ワークショップを行った。全体会では、フリーアナウンサーの戒田節子氏の講演をはじめ、各分科会の研究を共有した。

2. 女子体育に関する講習会及び育成事業

1) サマーセミナー

JAPEW SUMMER SEMINAR 2023—令和5年度夏期講座—

□生涯スポーツ研究専門委員会／授業・保育専門委員会
(宮本副会長 佐藤副会長 多田理事 高野美和子理事)
【公益財団法人スポーツ安全協会スポーツ普及奨励助成事業】

期 日	2023年8月19日(土)・20日(日)
後 援	スポーツ庁 東京都 (公財)日本スポーツ協会 (公財)スポーツ安全協会 (公財)ミズノスポーツ振興財団 (公財)日本学校体育研究連合会
会 場	国立オリンピック記念青少年総合センター
内 容	講演、講義、実技、実習 等
参加者	幼稚園・保育所・認定こども園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・短期大学・大学・ 専門学校・生涯スポーツ等の指導者及び関係者・大学生・大学院生 等
参加費	会員13,200円、一般15,400円、学生7,700円 追悼企画のみ2,200円 動画視聴コース(学校体育コースのみ)：会員 6,600円、一般 7,700円、学生3,300円 ※会員(正会員・特別会員・JAPEWダンスムーブメント指導員・『女子体育』年間購読者)

<概要>

今回のメインテーマは「ダンスが拓く未来」とし、サブテーマとして生涯スポーツは「リカレント～今こそ学び直そう～」、学校体育は「ダンスの現在地とダンス教育のこれから」を掲げて、新たな知識を学び直し、ここまでのダンスの歩みと共にこれからの未来を見据え、学び続けて頂くために様々な試みをした。また、今回のサマーセミナーの冒頭では、松本千代栄元日本女子体育連盟会長(2022年逝去)追悼企画を冠した講演とシンポジウムを開催した。

参加者の内訳は、追悼企画のみは、14名、生涯スポーツコースは、141名(会員93名、一般41名、学生2名、養成5名)であった。学校体育コースは、66名(対面コース：会員14名、一般7名、学生2名、動画視聴コース：会員22名、一般8名、対面と両方受講13名)であった。

追悼企画「ダンスが拓く未来～舞踊教育の礎を築いた松本千代栄先生から学ぶ～」は、基調講演およびシンポジウムというスタイルで開催された。基調講演では、片岡康子氏が、大学やJAPEWにおける深い関わりの中で出会った松本千代栄先生との生き生きとしたエピソードも含めて、その功績を紹介した。シンポジウムでは、松本千代栄先生が連盟で行ってきた研究の歩みについて、高橋眞琴氏が生涯スポーツ分野から宮本乙女氏が学校体育分野から報告した。その後、細川江利子氏のコーディネートによって、3演者の発表内容が整理され、松本千代栄先生が遺された様々な事業や研究や教育実践をどのように継承していくべきなのか、現在の連盟の課題を含めて意見が交わされ、未来に向けて検討していくべき視点を確認することができた。

生涯スポーツコースでは、土井善晴氏による「運動と情緒とおいしさ」というテーマで講演が行われ、「料理をして食べる」ことを、日々の暮らしの中にある「運動・情緒・おいしさ」に関連づけ哲学的にお話し頂いた。田中紀行氏による実習「いつまでも楽しく動けるダンスな身体」では、シンプルな動きから身体の使い方や意識の仕方など解剖学をベースに学んだ。実技④のヒットン氏による「キッズが夢中になるダンス」では、子どもたちの「分かる→できる」に変わる、分かりやすい指導法をヒップホップにのせて元気に楽しく学んだ。また、松本千代栄先生を追悼し、生涯スポーツ研究専門委員会では7Motivesを手がかりとしたダンスムーブメントの実技を行った。多田五月氏及び生涯スポーツ研究専門委員による実技①「快～Beat～・流～silent～」、飯田路佳氏による実技②「躍～おどる～」、田中安理氏による実技③「冷～Rain～」、佐藤廣子氏による実技⑤「愛～かなしみ～」など質感の異なる作品が展開され、受講者と共鳴し合う講習となった。終了後に行ったアンケート結果からは、「ダンス創作

や作品に合わせた衣裳の工夫」など高評価が得られた。その反面「内容が盛りだくさんでありがたいがストレッチの時間がもっとほしい」など、次年度開催への有益なヒントを得ることが出来た。

学校体育コースでは、初日に宮本乙女氏と浅川典子氏による実技①「問いかけて引き出す、楽しい創作ダンス」が行われ、小学校から高校までの創作ダンス授業において、教師の問いかけによって生徒から動きやイメージを引き出す指導法を学んだ。2日目の田巻以津香氏による実技②「振付に頼らなくても大丈夫！楽しいリズム系ダンス」では、リズム系のダンス授業において、リズムに楽しく乗りながら生徒自身から動きが生まれる授業の展開方法を学んだ。続いて熊谷拓明氏による実技③「身体に潜む踊りを探る」では、今ここにある自身の身体、意識の在り様、他者との関係等を注意深く感じながら、いつの間にか踊りが生まれるプロセスを体験した。今年度もダンス指導の現場で実践できる指導方法を学べる有意義な講習となった。また対面コースに加えて動画視聴コースを設けたことで、遠方からの参加者も加わり充実した講習となった。

■ 8/19・20 プログラム

8月19日(土)	生涯スポーツコース	10:00~	10:20~11:50 【センター棟417】	13:10~14:30	14:40~16:00 【スポーツ棟1.2体】	16:10~17:30	19:00~20:00	
	学校体育コース	受付 開講式	松本千代榮先生追悼企画 基調講演&シンポジウム 『ダンスが拓く未来へ —舞踊教育の礎を築いた松本千代榮先生から学ぶ—』 片岡康子 高橋真琴 宮本乙女 コーディネーター 細川江利子 対面・オンデマンド(学校体育コースのみ)	実技① ダンスムーブメント 『快～Beat～流～silent～』 多田 五月 生涯スポーツ研究専門委員	実技② ダンスムーブメント 『躍～おどる～』 飯田 路佳	実技③ ダンスムーブメント 『冷～Rain～』 田中 安理	復習コーナー	
8月20日(日)	生涯スポーツコース	8:45~9:00	9:00~10:30 【センター棟102】	10:45~12:15 【スポーツ棟1.2体】	13:10~14:40	14:50~16:10 【スポーツ棟1.2体】	16:15~16:45	18:30~ 【センター棟306】
	学校体育コース	受付	講演 『運動と情緒とおしさと』 土井 善晴	実習 『いつまでも楽しく動けるダンスな身体 —理学療法士が伝えたい意識と動きの世界—』 田中 紀行	実技④ 『キッズが夢中になるダンス ～わかりやすい教え方～』 ヒットン	実技⑤ ダンスムーブメント 『愛～かなしみ～』 佐藤 廣子	振り返り・閉講式	DMIL養成
		9:10~9:30	9:30~11:30 【スポーツ棟3体】	13:15~16:00 【スポーツ棟3体】	13:15~16:00 【スポーツ棟3体】			
		受付	実技② 『振付に頼らなくても大丈夫！楽しいリズム系ダンス』 田巻 以津香 対面・オンデマンド	実技③ 『身体に潜む踊りを探る』 熊谷 拓明 対面・オンデマンド		閉講式		

2) JAPEW 未来世代の研究発表会

第67回研究論文発表部門・卒業ダンス作品発表部門

□研究交流専門委員会(宮本副会長 長谷川理事 高田理事)

期 日 2024年2月11日(日・祝)

会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター(カルチャー棟 小ホール)

内 容 ①研究論文発表部門:卒業論文・修士論文・博士論文の口頭発表及びポスター発表

②卒業ダンス作品発表部門:卒業・修了学生によるダンス作品の発表及び招待作品上演

参加者 大学生、教育関係者、会員、一般

合計 206名

参加費 発表者1,000円、参観者500円(研究要旨集・ダンスプログラム代)

<概要>

この研究発表会は、3月に大学を卒業、修了する未来世代の若者による、研究(口頭発表・ポスター発表)とダンスの発表会である。今年度も昨年度に引き続き対面にて実施することができ、口頭発表3題(修論3題)、ポス

ター発表 37 題 (卒論 25 題、修論 12 題)、ダンス発表 9 作品、ダンス招待作品 2 作品の発表があり、発表者 106 名、聴講及び鑑賞者 60 名、指導教員・スタッフ等 40 名を含め、206 名の参加人数であった。

昨年度から参加費をコロナ禍以前の対面実施時に戻し、今年度も参加費 1,000 円、論文聴講者・ダンス鑑賞者の要旨集・プログラム代を 500 円とした。会場はカルチャー棟小ホールであり、口頭発表及びダンス発表を小ホール、ポスター発表を小ホールロビーにて行った。口頭発表は、ポスター発表者、ダンス作品発表者も聴講し、口頭での論文発表に加え、発表者へのインタビューの時間を設けた。活発な質疑応答が行われるとともに、インタビューでは発表者の研究のきっかけや研究へ臨む姿勢等を伺い、和やかな雰囲気での発表となった。ポスター発表では、コロナ禍以前の申込数に戻り、多くの学生の参加があり、活発なやり取りが交わされ、活気ある発表、交流の場となった。ダンス発表は卒業を目前にした学生の思いが込められた作品が発表されるとともに、招待作品として、神奈川県立大和高等学校創作舞踊部、埼玉大学ダンス部による第 35 回高校・大学ダンスフェスティバル (神戸) 創作コンクール部門受賞作品が披露され、好評を得ることができた。

3) JAPEW ダンスムーブメントセミナー

第 17 回 JAPEW ダンスムーブメントセミナー 2023 with JAPEW

□指導員制度専門委員会(佐藤副会長 田中安理常務理事)

主 催 (公社)日本女子体育連盟
期 日 2024年1月21日(日)
会 場 十文字学園女子大学
後 援 スポーツ庁・(公財)日本学校体育研究連合会
講 師 細川江利子、佐藤廣子、飯田路佳、田中安理、多田五月
参加者 120名(講師・顧問・参与含む)
参加費 4,000円

<概 要>

本大会では生涯スポーツと学校体育の振興に寄与する人材育成を目指す講習会として一日開催し、5名の講師陣による実技講習会を対面で実施することができた。講習内容もリズムにのって楽しく、歌詞(言葉)に導かれてのびやかに、そしてバランスボールを用いて全身で動く作品や、更にバランスボールを人生の重さに見立てた作品の指導等バラエティにあふれた。県の内外(北は山形から南は佐賀まで)から集まった参加者は喜びに満ちていた。これは多数の自由記述アンケートからもうかがい知ることができ、学校体育・生涯スポーツのそれぞれの魅力とつながりをより強く感じる有意義なセミナーとなった。

詳細については、『女子体育』2024年夏号で報告予定。

4)「JAPEW ダンスムーブメント指導員」養成事業 (略称 JAPEW-DMIL)

□指導員制度専門委員会(細川会長 田中安理常務理事)

①「JAPEW ダンスムーブメント指導員」養成講習会

<A級-第18回、B級-第22回、C級-第25回>

期 日 2023年8月19日(土)・20日(日)・21日(月)
会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター
主 管 (公社)日本女子体育連盟 指導員制度専門委員会
内 容 理論、実技 計21時間 (※19日・20日はサマーセミナー受講に代える)
講 師 飯田路佳、佐藤廣子、池田まさみ(十文字学園女子大学)
受講者 今年度資格取得希望者 B級2名、C級3名 計5名
受講料 会員・一般・学生 16,500円(SS受講料含む)

②「JAPEW ダンスムーブメント指導員」検定講習会

期 日 2023年9月28日(木)・29日(金)・30日(土)
会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター
主 管 (公社)日本女子体育連盟 指導員制度専門委員会
内 容 理論、実技、指導実習 計19時間 ※検定試験
講 師 細川江利子、宮本乙女、佐藤廣子、片岡康子、高橋眞琴、林眞幾子、村田芳子、飯田路佳
受講者 B級2名、C級3名
合格者 B級1名、C級3名
検定委員 細川江利子、佐藤廣子、片岡康子、高橋眞琴、林眞幾子、村田芳子、飯田路佳
<概 要>

人数は少ないものの講習・検定にあたる委員が熱い想いで受験者に寄り添い実施され、存分に指導を受け、成果を得ることのできる絶好の機会となった。詳細は『女子体育』2024冬号で報告した。

公認指導員現数は129名 (2024.02.01現在)

③「JAPEW ダンスムーブメント指導員」クリニック

期 日 2023年8月21日(月)
会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター
主 管 (公社)日本女子体育連盟 指導員制度専門委員会
内 容 実技研修
講 師 林眞幾子、村田芳子、高橋眞琴、片岡康子
受講者 S・A・B・C級 有資格者 52名
受講料 会員 5,500円
<概 要>

クリニック講習会は指導者としてのスキルアップを目的として開催される。コロナ禍前の熱気が戻り、受講者は対面で動けることの喜びを感じながら熱心に受講していた様子であった。詳細は『女子体育』2023特集号で報告した。

3. 機関誌その他の学術刊行物の発行

1) 『女子体育』編集発行

□ 『女子体育』編集専門委員会(宮本副会長 田巻常務理事)

- ① 刊行 通常号は季刊(年間4回)とした。他に、AJDF神戸特集号を発行、合計5回とした。
春号：4月8日発行 夏号：7月8日発行 秋号：10月8日発行 冬号：1月8日発行
AJDF神戸特集号：11月10日発行
- ② 体裁 B5判。通常号64頁、AJDF-Kobe特集号80頁とした。
- ③ 購読料 年間購読料5,800円、新卒4,000円、学生3,800円、JAPEWダンスムーブメント指導員4,000円
通常号、特集号共に、1冊売りは1,320円(税込)
- ④ 刊行方針 ダンス指導について先進的に世に提案していく。これまで同様、しっかりと理論に裏打ちされた実践的な内容を掲載し、現場の保育者、教師、生涯スポーツの指導者、体育やダンスを学修する学生の、実践や研究に資する雑誌を目指す。
- ⑤ 年間テーマ 「ダンスが拓く未来」
2023年度は、新たに「ダンスが拓く未来」を年間テーマとし、ポストコロナを見据えたダンス指導について探究する1年とした。
- ⑥ 各号テーマ
 - 春号 ころころ弾ませて
 - 夏号 扉を開けて
 - 秋号 一緒に見つけて

○冬号 時を紡いで

○特集号 第35回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)特集号

<概要>

機関誌『女子体育』としてのあり方、JAPEW事業全体における会計的な問題、他誌との差別化を図り購読者を増やすことについて検討し、リニューアルを図った2年間を引き継いでの1年となった。他の連盟の事業同様、コロナ禍以前のような販路拡大の活動も難しく、購読者を増やすことはできなかった。さらなる経費削減と、在庫削減のため10月8日発行の秋号より印刷部数を800部に変更した。

2021年度のリニューアルでは、①他誌との違いを出すこと、②『女子体育』という名称により、女子や女子教員を対象とした提案であるという誤解を招くため、表紙デザインの中に、「Dance Education for All」のロゴを配置して、ダンス教育に関する雑誌であること、の2点を特に強調してきたが、まだ社会への認知度は低いと思われる。

表紙には、掲載記事のタイトルの一部を掲載して、内容のアピールをしたことを含め、好評であった2021年度のデザインを引き続き活用、色味を変えることで2023年度版とした。

体育・スポーツに関する連載「やさしく読み解く体育・スポーツの今」については、話題も多岐にわたり学びを得ることができたが、さらに内容は開拓できそうであるという手応えを得た。

生涯スポーツのダンス指導者の読者が多いことを鑑みて、JAPEWダンスムーブメント指導員向けの、より実践的な連載「課題曲レッスン」を継続した。動画の二次元バーコード掲載が好評であった。

クラウドを使った編集作業の効率化や、ミスを少なくするような仕組みを随時検討してきた。年々効率化が図られてきたが、2023年10月から開始されたインボイス制度に対応するための仕組みを新たに考案する必要が生じた。まだ運用を開始したばかりであるため、2024年度も引き続き作業の正確性を担保しながら効率化を図っていきたい。

特別会員で会員費を払っている仲間に、さらに連盟への帰属意識を高めていただくために全員配布として、3年間を終えた。現在掲載しているよい実践や、本連盟の主催イベントについて関心を持っていただき、各県の取り組みをもっと積極的に掲載していくことで、本誌の機関誌としての意義をさらに高めていきたい。毎号2件ずつ掲載する「各加盟団体便り」は、コロナ禍からの苦労を抱えながらも懸命に実施されている活動が紹介され、お互いの刺激につながったと好評であった。また、2023年度は全国女子体育研究大会が愛媛県で対面開催された。時間をかけて取り組んだ授業実践を本誌に掲載していくこととした。

経費に関するその他の工夫として、会員からの有料広告掲載ページ(1件5,000円で、毎号3件の収入を見込む)を導入したが、なかなか掲載申し込みが増えないことが引き続き問題となっている。

2) 『(公社)日本女子体育連盟 学術研究』発行

□『(公社)日本女子体育連盟 学術研究』編集委員会(細川会長 福本理事 原田理事)

・『(公社)日本女子体育連盟 学術研究』第40巻を発行した。論文の投稿は全5件あり、論文1件につき2名から3名の審査者(全13名)に依頼した。最終的に2件を掲載した。

4. 関係諸団体との連携及び国際的な研究交流の推進

1) 全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)

第35回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸) 35th All Japan Dance Festival-Kobe

□AJDF-Kobe専門委員会(寺山常務理事 熊谷理事 渡辺理事)

期 日 2023年8月7日(月)・8日(火)・9日(水)・10日(木)

会 場 神戸市/神戸文化ホール・神戸市立中央体育館

主 催 (公社)日本女子体育連盟、神戸市、神戸市教育委員会

主 管 第35回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)実行委員会

後 援 スポーツ庁、(公財)日本スポーツ協会、NHK(日本放送協会)、

(公財)全国高等学校体育連盟、全国高等学校長協会、兵庫県、兵庫県教育委員会、

	(公財)神戸市スポーツ協会、(公財)ミズノスポーツ振興財団
協 賛	(株)日本旅行神戸支店、ミズノ株式会社、(株)フォトスタジオ八木
内 容	①開会式 対面開催 (出演関係者のみ参加) ②創作コンクール部門 (高校/予選・決選、大学/予選・決選) *予選、決選 有料公開 (全席指定) 学割席 (出演関係者のみ) を新設 ③参加発表部門 *有料公開 (全席指定) 学割席 (出演関係者のみ) を新設 ④表彰式・特別プログラム(創作コンクール部門高校・大学受賞作品) *特別プログラムは大ホールにて有観客2回公演 有料 全席指定
表 彰	文部科学大臣賞、NHK賞、日本女子体育連盟会長賞、神戸市長賞(以上、高大各1)、 特別賞(高大各4)、奨励賞(高大各1)、審査員賞(高3、大1)、準入賞(高4)
参加校数	①創作コンクール部門 高校/82 ・大学/26 計108校 ②参加発表部門 高校/28 ・大学/16 計44校
参加人数	①創作コンクール部門 高校/1,683 ・大学/426 計2,109名 ②参加発表部門 高校/470 ・大学/257 計727名
参加都道府県数	25
TV放映	NHK Eテレ 8月26日(土)16:00~17:00
その他	

- ・第20回大会記念DVD (20年間のテレビ放映映像を含む総集編)や過去大会の記録DVDを提供
- ・第35回大会の記録DVD(Blu-ray)と『女子体育』報告特集号の申し込み (大会最終日、案内窓口を設置)
- ・大会の詳細を『女子体育』報告特集号に報告

<概 要>

第35回大会は、新型コロナウイルスが感染拡大した2020年以来3年ぶりに、これまでwithコロナで開催した過去2大会の基本的な方針を踏襲しつつ、コロナ禍以前の大会の形に戻して開催した。参加者数は延べ2,836名、参加校数は152校、オンライン配信は実施しなかった。

前回大会からの具体的な変更点は、近年使用することが出来なかった小道具を、サイズを規定して復活させた。そして、大会1日目に従来行っていた「場当たり」、これまで大会を陰から支えてくれていた「AJDF サポーターズ倶楽部 (通称: さぼちゃんズ)」も復活。前回大会までオンライン配信で行っていた開会式は、対面開催とした。

新たな試みとして、大会1日目に創作コンクール部門出演者を対象とした任意参加の「割り当て練習」の機会を設けた(神戸市立中央体育館)。また、創作コンクール部門・参加発表部門共に「ウォームアップエリア」を設置(同体育館)。「KOBE シニア元気ポイント」というボランティア団体にも、運営にご協力をいただいた。

今大会もガバメントクラウドファンディング(ふるさと納税)を実施(2023年6月1日~8月31日)し、2,609,000円を集めることに成功した。

大会直前に沖縄、九州地方に台風が接近したため、一時、大会参加が危ぶまれた参加校も数校あったが、参加を予定していた全ての団体が大会に参加することが出来た。今大会も、大会役員・委員(総務・上演・アナウンス・審査・式典・受付・会場・楽屋)85名の他、舞台スタッフ(舞台監督・照明・音響)、各業者(日本旅行・写真・印刷・HP)等、多くの人々の力が結集し、無事に大会を終えることが出来た。

2)国際的な研究交流事業

□国際交流専門委員会(細川会長 田中葵理事)

① 国外の体育・スポーツ・ダンス推進団体との連携、情報交流

- 国際女子体育連盟(IAPESGW)との連携
- JAPEW HP「国際情報」ページや機関紙「女子体育」にて、IAPESGWの情報や、CID(International Dance Council 国際ダンス協議会)、IWG(International Working Group on Women and Sports 女性とスポーツの国際ワーキンググループ)等海外における国際的な女性と体育・スポーツ・ダンス関連の情報を配信した。

② インターナショナル・ダンス・ワークショップの開催

期 日 2023年5月20日(土)13:30-16:30

会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター スポーツ棟 第4体育室

主催 (公社)日本女子体育連盟

講師 柿崎麻莉子 (元 Batsheva Dance Company, LEV 舞踊団所属、フリーダンサー)

内容 国際的活動経験のあるダンサーによるワークショップと海外での就労経験についてのトーク

<概要>

コロナ禍でオンライン化の進んだ国際学会への参加促進のため、「国際学会発表に向けた研修会」を実施していたが、3年ぶりに対面でのワークショップを開催した。今回は国際的な活動経験のある柿崎麻莉子氏を講師として招聘し、その技法や作品創作法について学ぶワークショップに加え、海外での就労/留学に関心のある学生に向け、日本人として海外でダンサーとして就労した経験等のトーク時間も設けた。また、ダンスに対する国際的な視野を学ぶ機会とすると同時に、ワークショップを通して受講生間の交流を深め、ダンスに関する情報交換を行える場を提供することも目的とした。当日の参加者は24名(会員7名、学生17名)であった。参加者による事後アンケートでは、「こんなにあつという間で楽しいワークショップは人生初でした」「ただ踊るだけではなくいろいろなお話や考えがおうかがいできて、非常に有意義でした」等の感想が寄せられ、満足度は大変高かった。詳細は『女子体育』2023 夏号にて報告した。

③ (公社)日本女子体育連盟の活動情報の国外への発信

○ホームページのイングリッシュガイドの情報を更新した。

④ 日本国内にある異文化グループや国際交流グループとの連携事業についての検討

○学校や地域において、体育・スポーツ・ダンスを通じた異文化交流が推進できる方法を提案できるよう、情報収集を行った。

5. 研究の奨励及び研究業績の表彰

1) JAPEW 賞顕彰

□ JAPEW 賞選考委員会(細川会長 飯田常務理事)

JAPEW 賞は社団法人(当時)日本女子体育連盟創立 50 周年を記念して、平成 16 年度に「指導者賞」と「研究奨励賞」の 2 賞が制定されたが、24 年度に新たに「功労賞」が制定され、3 賞となった。さらに連盟創立 60 周年を期に新たに平成 26 年度に「松本千代栄賞」が制定された。本年度は功労賞および指導者賞について候補者の推薦があり、2023(令和 5)年 10 月 10 日までに書面にて各賞の選考委員会を開催し、慎重に審議した結果、以下の通り決定した。受賞者は、第 56 回全国女子体育研究大会(愛媛大会)(令和 5 年 12 月 1 日・2 日)の全体会(12 月 2 日午前開催)において、JAPEW 賞表彰式をおこなった。なお、受賞者氏名は機関誌『女子体育』誌上および HP 上で公表した。

① 第10回松本千代栄賞

受賞者 村田芳子(茨城県)

選考委員会(委員長)細川江利子

(委員)宮本乙女、山西哲郎、片岡康子、高橋和子、八木ありさ、(村田芳子)

② 第12回 JAPEW功労賞

受賞者 高野牧子氏(東京都)

選考委員会(委員長)細川江利子

(委員)佐藤廣子、片岡康子、村田芳子、高橋和子、八木ありさ、高橋眞琴

③ 第20回 JAPEW指導者賞

受賞者 伊藤敦子氏(愛知県)、大坂真喜子氏(香川県)、岡山博子氏(鹿児島県)、白井麻子氏(大阪府)、原田祐子氏(岡山県)、三代川葉子氏(東京都)、我妻シヲ子氏(埼玉県)

選考委員会(委員長)細川江利子

(委員)佐藤廣子、本村清人、林眞幾子、笹本重子、熊谷佳代、飯田路佳

④ 第20回 JAPEW研究奨励賞

受賞者 該当者なし

選考委員会(委員長)細川江利子

(委員)宮本乙女、寺山由美、原田純子、村田芳子、高橋和子、八木ありさ

6. 広報・普及活動

1) IT による広報・普及活動

□広報・普及委員会(飯田常務理事)

①ホームページの内容充実及び開示情報の更新

- 各事業と関連し、情報発信の敏速性とHPの充実をはかった。
- 事業報告、事業計画、財務諸表(決算書・予算書等)の情報を公開した。
- ネット管理会社EDLからWIX直接管理への移行をした。

②JAPEWに関連する公式SNSの管理

- JAPEWの活動内容の情報ツールとしてSNS(Facebook等)に関する管理を行なった。

③各加盟団体とのIT化の推進

- 事務手続き効率化のため、各加盟団体間でIT化を一層推進した。

⑤『(公社)日本女子体育連盟 学術研究』の電子化

- 『(公社)日本女子体育連盟 学術研究』第39巻を電子ジャーナルとしてJ-STAGEに公開(9/12)した。

⑥ その他

- WIXへの移行に伴い、12月よりHPの1ヶ月毎の利用状況のまとめと報告を行った。

2) その他の活動

①『女子体育』購読促進活動・会員増員のための活動

- 特に活動することができなかった。今後は他部署との連携を図り推し進めていく必要がある。

②JAPEW関連事業に関する動画の制作

- 令和5年度総会で使用する映像の作成をした。